

こたつでデジQトレイン! 改造編

text : RMM/photo : 羽田 洋
取材協力 : コナミ株式会社
© 2004 KONAMI

突然ですが、デジQトレインの改造を楽しむ愛好者が急増中!

オフィシャルサイトにも素晴らしい作品が続々発表されている。冬の夜長はこたつに入って、デジQトレインを着に肩の凝らない工作を楽しむのはいかがかな?

楽しい情報満載のコナミ・デジQトレインのオフィシャルサイト (<http://www.micro-ir.com/train/>) だが、最近とくに盛り上がっているのが改造ネタ。熱心なデジQトレインファンの手による素晴らしい作品がズラリと並ぶ。さらにデジQトレインのさまざまな楽しみ方を紹介するTrain View.NET (トレインビューネット・<http://www.trainview.net/>) には、各種の改造事例が詳しい制作プロセスと共に紹介されていて、モデラー魂をおおいに刺激されること請け合いです。

気軽に楽しめるのがデジQトレインの身上。改造といってもあまり堅苦しく考えず、イージーにいきいたいものだ。手始めに単体でもサマになる機関車の改造はいかがだろうか。

現在デジQトレインの機関車としては、EF65-500、EF58、DF50が発売されている。改造ネタはいろいろと考えられるが、まずは塗り替えを主体にイメージチェンジをはかるプランを考えてみた。

特にEF58は塗装のパラエティが豊富であることはご存じの通り。製品のEF58は一般色だが、昨春秋にはイベント会場限定品として有名機EF58 61が発売されている。これはすでに入手困難なので、自分だけのオリジナル仕様の61号機を制作するのもいい。もちろん他にもネタは無数にある。

EF58には前面窓の大小や側面ハシゴの切り込みの有無など、ディテールの差に富むことも有名だ。それぞれの塗装にもっともマッチする形態への改造も楽しい。

EF65-500はそれほどのバリエーションは無いものの、それでも製品の特色色をベースに、0番代登場当時の茶色、後の一般色、現在の更新色などへの衣替えが考えられる。DF50についても朱色から、旧塗装の茶色へ塗り替えるプランがまずは浮んでくる。

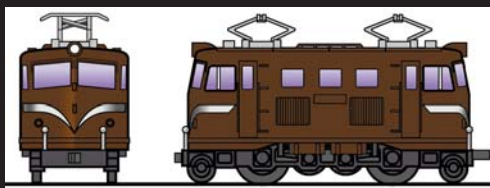
ここでは各種の塗装変更プロジェクトをイラストでシミュレーションして、デジQトレイン・ファンの参考に供することにしよう。下回りの色なども結構変わっているなどして、奥が深いゾ。完成した作品は是非デジQトレインのオフィシャルサイトに投稿していただきたい。

デジQトレインのさまざまな改造例を下記のホームページで見ることができるゾ!

- <http://www.trainview.net/> デジQトレインの各種改造プロセスをはじめ、多彩な遊び方を紹介中。
- <http://www.micro-ir.com/train/> デジQトレイン・ファンの皆さんによる改造作品も多数紹介されている。



EF58茶色



▲流線型車体を持つ新製ゴハキ登場時の姿。茶1色なので塗り替えは簡単で、なおかつ決い魅力をたたえている。旧客を牽かせたい!

EF65茶色



▲EF65デビュー当時の茶1色の装いも意外に似合う。製品の500番代は0番代と基本的に同形だから塗り替えだけでOKだ。

EF58 4試験塗装風



▲1954 (昭和29) 年頃に見られたEF58の試験塗装機の中で一番人気だった4号機。フランスの電機をモデルにした洒落者だ。

EF65一般色



▲いわゆる白マスクの一般色。特急色のイメージが強いEF65だけに、カラーリングの変更で違う機関車かと思うほどのイメージチェンジが可能だ。

EF58 16試験塗装風



▲こちらも試験塗装の一種。16号機その他18号機に施されたブルー基調の塗り分けだ。実物は前面大窓車だったので製品そのままOK。

EF65更新色



▲貨物列車の先頭にたつて現在も活躍するEF65の姿。更新に伴うさまざまな装備変更を再現するの面白い。

EF58青大将



▲言わずと知れた青大将。下廻りは当初は濃いグリーンで、ほとんど黒に改められたという。このあたりもこだわると楽しい。

EF58ブルートレイン風



▲20系に合わせたカラーのブルートレイン塗装。実物は前面小窓車ばかりだったが、塗り替えだけで雰囲気を楽しむのもいい。



▲昨春秋にイベント限定品として発売されたEF5861。今では入手困難だが、改造によって自分だけの「61」を手にするのもいい。

DigiQ TRAIN
デジキュートレイン™

商品に関するお問い合わせは…コナミホットラインTEL. 0570-086-573
J R東日本商品化許諾済